



巻頭言

副院長就任のご挨拶

副院長 もりた 森田 まさし 将



4月1日より、昭和大学江東豊洲病院 副院長の末席に加えていただきました、外科系診療センター 泌尿器科の森田 将と申します。まだまだ気は抜けないものの、ようやくコロナ禍からの回復基調となり、また江東豊洲病院の開院10年目の節目にあたるタイミングで、このような重責を仰せつかり身の引き締まる思いです。本年度より副院長は3名体制となりましたが、私は主に医療安全と災害対策、診療運営は手術室・ICU・放射線などを担当いたします。すでに4月よりさまざまな業務が始まっていますが、まだまだ不慣れで皆様のご助力をいただいております。

私は1996年に昭和大学を卒業してから、東京都立広尾病院と昭和大学横浜市北部病院にそれぞれ1年ほど出向する機会がありましたが、それ以外は昭和大学病院に長期間勤務していました。そのため、江東豊洲病院には開院時から在籍していますが、2014年当時は縁遠い地域の病院に赴任した印象もありました。しかし、気がつけば10年近い月日が経過して、自身のキャリアで最長勤務の病院になりつつあり、いつしか愛着も湧きました。私は、泌尿器科の診療科長を務めていますが、江東豊洲病院勤務後は、災害派遣医療チーム（DMAT）に所属したり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、大会組織委員会に所属して会場医療責任者（VMO）を務めたりと、泌尿器科医としての職務以外の貴重な経験の機会もいただきました。新型コロナウイルス感染症の上陸直後の派遣や、またコロナ禍でのオリンピック・パラリンピック開催の中で学んだことも、今回担当する災害対策や医療安全の分野に有意義に活かしていけたらと考えております。

開院10年目を迎える本年、横山 登 新病院長はこれからの10年間の目標を「進化する病院」とし、また達成するための3つの施策を掲げています。江東豊洲病院には、特徴ともいえる職種・診療科間の垣根なき風通しの良さがあります。この風通しの良さは、フラットな関係性や活発なコミュニケーションを生み、目標を達成するために一丸となることの大きなメリットになると思います。今までの10年間で培ってきたこの大切な職場風土を守りながら、皆様と一緒に地域医療への貢献と病院発展に向けて新たな気持ちで臨んでいけたらと思います。私は副院長の中で最も若い若輩者ではございますが、皆様のご期待に応えるよう日々精進していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



第110号のトピックス

- 巻頭言（副院長就任のご挨拶）
- 感染管理室紹介
- 新型コロナウイルス感染症への当院の対応について
- 江東区救急業務連絡協議会で功労賞を受賞しました
- ご支援の御礼
- 編集後記

江東豊洲病院の感染管理室は病院長の直接的な管理下にある組織として、院内感染対策活動に従事し、Infection Control Doctor(ICD)を含む医師、感染管理看護師、感染管理薬剤師、臨床検査技師、事務担当者から構成されています。

感染管理室全体の業務としては

- ・ 院内感染症のサーベイランス、感染発生率の調査
- ・ 感染症アウトブレイクの早期発見、生じた際の対策、対応、事後評価、報告
- ・ 標準予防策、感染経路別予防策の周知、徹底、手指衛生順守の向上
- ・ 職員の針刺し、曝露事故などの職業感染対策、インフルエンザや新型コロナウイルスのワクチン接種活動
- ・ 抗菌薬使用状況の把握、抗菌薬適正使用への監視、啓発、介入など
- ・ 院内感染対策マニュアルの作成、改訂
- ・ アンチバイオグラム作成、血液培養2セット率、培養陽性率のモニタリング
- ・ 各種院内感染事例、予防策などのコンサルテーション
- ・ 感染防止のための職員教育活動（定期講習会、臨時の感染講習会など）
- ・ 全国サーベイランスへの参加
- ・ 地域医療施設との感染予防についての連携



感染管理室スタッフ
前列中央 岡田感染管理室長

などが挙げられます。

実際の業務は其中で ICT：Infection Control Team と AST：Antibiotics Stewardship Team によって行われています。

ICT（感染制御チーム）は各種院内感染症から患者さんや職員を守るための実働部隊です。

院内を巡回する感染症ラウンドを毎週行い、院内のすべてで環境対策などを含め感染対策が正しく行えているかを確認し、必要があれば現場にて指導し、改善を促し、教育したりしています。長年の問題である手指衛生の実施率の改善にも、監視、評価を含め、実施の向上に意欲的に取り組んでいます。

AST（抗菌薬適正使用支援チーム）は抗菌薬の不適切使用や長期投与が薬剤耐性菌の発生、蔓延に繋がるため、その対策として、抗菌薬使用を適切に管理、支援するために活動しています。

毎週、広域抗菌薬、抗 MRSA 薬使用者、長期投与者や血液培養陽性者などをピックアップし、抗菌薬ラウンドを行い、各種培養提出や抗菌薬使用へのアドバイスなどを行っています。

さらに最近では院内感染のみならず、新型コロナウイルス感染症の流行から、感染対策活動についても地域との連携が社会的にも求められるようになりました。当院の感染管理室としても地域の保健所や医師会、クリニックとの連携を密にし、地域全体の感染対策向上に取り組んでいきたいと思ひます。



新型コロナウイルス感染症への当院の対応について（6月1日現在）

【COVID-19に関する当院の対応について】

感染管理室主導のもと、手指衛生（こまめな手洗いや手指消毒）および咳エチケットなどを徹底し、感染予防に万全を尽くしています。引き続き、院内滞在中は必ずマスクをご着用いただきますようご協力をお願いいたします。

【面会制限の緩和について】

日頃より新型コロナウイルス感染症の院内感染防止に伴う面会制限にご協力いただき、感謝申し上げます。面会については、長らく感染防止の観点から禁止していましたが、感染症患者数が減少傾向にあることから、以下の制限のもと令和5年5月5日（月）より一部再開しています。

ただし、新型コロナウイルス感染症のリスクが変わるわけではございませんので、面会時には以下の注意事項を遵守くださいますようお願いいたします。

【面会条件】

◎面会時間：13：00～17：00（15分以内）

※ICU病棟、NICU病棟、こどもセンター病棟の面会についてはお問合せください。

◎面会頻度：1名の患者さんにつき1日1組まで

◎面会人数：2名まで

◎面会場所：個室もしくはデイルーム

◎注意事項：

- ・マスクの着用は必須
- ・体温が37.0℃以下
- ・新型コロナウイルス感染症の罹患歴がある場合、発症から11日以上経過していること
- ・原則、小学生以下の面会は禁止
- ・面会中の飲食禁止
- ・病院に入る際、病棟に入室する際には、アルコール性手指消毒を行うこと
- ・咳・下痢・嘔吐等の症状がないこと
- ・家族に発熱・咳・下痢・嘔吐等の症状がある人がいないこと
- ・1週間以内に新型コロナウイルス感染症陽性者との接触がないこと



面会時間以外のお荷物の受け渡し方法は、1階11番「時間外・救急受付」でご案内いたしますので、お申し出ください。その際、必ずマスクを着用のうえご来院くださいますようお願いいたします。

なお、今後の感染状況により面会の運用を変更する場合がございます。

詳細はホームページの案内をご確認ください。

入院中の患者さんの感染を防止するため、ご理解ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



江東区救急業務連絡協議会で功労賞を受賞しました

救急センター病棟・嵯峨野 亜紀 看護師（現7B病棟看護師長）、救急外来・佐々木 美季 看護師が長年にわたり救急医療に従事し地域住民の安全・安心に寄与したとして、その功労を称えられ、4月20日に開催された江東区救急業務連絡協議会において表彰されました。

当院は急性期医療を担う地域中核病院として、職員一同より一層の研鑽に努めてまいります。



左から横山病院長、佐々木看護師、佐々木救急センター長、嵯峨野看護師、江口救急副センター長



ご支援の御礼

新型コロナウイルス感染症の治療にあたる医療従事者に対して、多くの皆様から労いのお言葉や心温まるご支援を頂戴しています。

お心遣いに心から感謝申し上げます。

今後も私たちは皆様からのご支援を力に変え、引き続き安全・安心な医療の提供に努めてまいります。

皆様からのご支援に対し、重ねて御礼申し上げます。

なお、ご支援の詳細は当院ホームページでも掲載しております。



ご支援の一部



編
集
後
記

6月に入り、いよいよ梅雨の季節になりました。梅雨といえば、雨が多い、蒸し暑い、洗濯物が乾かないなど、あまり過ごしやすい季節とはいえませんが、この時期にしか出会えない、すてきな風景もたくさんあると思います。私は、梅雨が始まりじめじめとした雨の日が続くと、どうしてもどんよりとした気分になってしまうのですが、雨露に濡れる色とりどりの紫陽花をみると心が洗われるような気持ちになり、コロナ禍前は、鎌倉や箱根に紫陽花を観に行くことが梅雨の季節の楽しみでした。

ゴールデンウィーク以降、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更となり、外出や旅行の気運が高まっています。この変化に戸惑い、不安な気持ちを抱えている方もいらっしゃると思いますが、日常の基本的な感染予防対策は継続しつつ、梅雨ならではの風情が感じられる景色を探しに行かれてみてはいかがでしょうか？



腎臓内科 だけしま あきこ
竹島 亜希子



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
TEL03-6204-6000(代表)
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ